

短期留学生報告（2009年10月～2010年9月）

加藤扶久美

1 はじめに

富山大学留学生センターでは、学術交流協定校からの短期留学生が学部および大学院で学習・研究が円滑に進められるように、「富山大学短期留学生受入れ体制要項」に基づき、日本語教育および見学旅行「スタディ・トリップ」の立案・実施をしている。

表1に所属別短期留学生数を示した。2009年度後期（2009年10月～2010年3月）に20人、2010年度前期（2010年4月～9月）に16人在籍した。

表1 所属別短期留学生数

	五福地区					杉谷地区	高岡地区	合計
	人文	人発	経済	理工	生命	医薬	芸文	
2009年度後期	7	2	3	2	1	2	3	20
2010年度前期	7	2	4	3	0	0	0	16

* 人文は人文学部と人文科学研究科，人発は人間発達科学部，経済は経済学部と経済学研究科，理工は理工学教育部，生命は生命融合科学教育部，医薬は医学薬学教育部，芸文は芸術文化学部を示す。

本稿では、表1に示した短期留学生について、2009年度後期と2010年度前期の日本語プログラム（五福キャンパス）の受講状況とスタディ・トリップの実施と参加状況について報告する。

2 日本語プログラム（五福キャンパス）の受講状況について

2.1 総合日本語コース

上級レベルの短期留学生は、総合日本語コースを受講できる。受講者は、2009年度後期が11人、2010年度前期が10人である。

表2に所属別「総合日本語コース」受講者数を示した。「総合日本語コース」の受講者は文系の人文学部，人文科学研究科，人間発達科学部，経済学部，芸術文化学部に在籍している。

表2 所属別「総合日本語コース」受講者数

	人文	人発	経済	芸文	合計
2009年度後期	6	2	2	1	11
2010年度前期	6	2	2	0	10

* 人文は人文学部と人文科学研究科，人発は人間発達科学部，経済は経済学部と経済学研究科，芸文は芸術文化学部を示す。

表3に出身大学別「総合日本語コース」受講者数を示した。受講者が比較的多いのは、韓国の国民大である。

表 3 出身大学別「総合日本語コース」受講者数

	韓国		中国			チェコ	合計
	国民大学校	江原大学校	山東大学	上海大学	大連理工 大学	プラハ美術 工芸大学	
2009 年度後期	3	1	2	2	2	1	11
2010 年度前期	3	1	2	2	2	0	10

表 4-1 と表 4-2 に、授業科目別「総合日本語コース」受講者数を示した。2010 年度前期から科目名を変えたため、2つの表に分けて示した。

表 4-1 授業科目別「総合日本語コース」受講者数

	読解 I	読解 II	作文	聴解	会話	漢字	日本 文化	文法	表現 技術	合計	平均 受講 コマ数
2009 年度後期 (受講者:11人)	0	1	4	1	4	2	8	4	0	24	2.2

表 4-2 授業科目別「総合日本語コース」受講者数

	読解 A1	読解 B1	作文 1	聴解 1	会話 1	漢字 1	日本 文化 1	文法 1	表現 技術 1	合計	平均 受講 コマ数
2010 年度前期 (受講者:10人)	0	2	2	1	2	3	7	1	4	22	2.2

平均受講コマ数は、各期ともに 2.2 コマである。

2.2 日本語課外補講

初級・中級レベルの短期留学生は日本語課外補講を受講できる。受講者は、2009 年度後期が 5 人、2010 年度前期が 6 人である。

表 5 に所属別「日本語課外補講」受講者数を示した。2009 年度後期は、経済学研究科 1 人と理工学教育部 2 人と芸術文化学部 2 人の計 5 人が、初級クラスを受講した。2010 年度前期は、経済学部 1 人が中級クラスを、経済学研究科 1 人と理工学教育部 4 人の計 5 人が初級クラスを受講した。

2009 年度後期の高岡キャンパス芸術文化学部の受講者は、高岡キャンパスと五福キャンパス間のシャトルバスを利用して、五福キャンパスで開講されている日本語課外補講を受講した。

表 5 所属別「日本語課外補講」受講者数

	経済学部・研究科	理工学教育部	芸術文化学部	合計
2009 年度後期	1	2	2	5
2010 年度前期	2	4	0	6

2.3 成績評価

上級レベルの短期留学生については、受講した総合日本語コースの科目の成績評価がなされる（「総合日本語コース報告」参照）。学生への成績通知は、日本語教育部門短期留学生担当の加藤扶久美が「学業成績通知書」を作成し、学期末に個別に渡している。人文学部については、学部長名で、「富山大学人文学部短期（1年）留学生プログラム（受け入れ）」に基づく「履修証明書」が発行されている。

初級・中級レベルの短期留学生については、依頼に応じて、受講した日本語課外補講の「受講証明書」が発行される。

3 スタディ・トリップの実施状況

3.1 見学ツアー

2009年11月7日（土）～11月8日（日）の「外国人留学生のための日本文化探訪・日本企業見学ツアー」の一環としてスタディ・トリップを実施した。経費は学長裁量経費と留学生経費で、貸切バスで出かけた。行き先はGOLDWIN北陸営業所（小矢部市）、五箇山民俗館、OAK VILLAGE（高山市清見町）、新平湯温泉、高山、飛騨古川、道の駅スカイドーム神岡で、参加者52人のうち、短期留学生は8人であった。短期留学生担当の加藤扶久美がコーディネートし、加藤扶久美、副島健治および学務部学生支援グループ留学支援チーム員の3人で引率した。

3.2 フィールド・トリップとの合同見学

日本語研修コースのフィールド・トリップとの合同見学として、2010年6月4日（金）の午後に富山大学高岡キャンパス芸術文化学部研究室を訪問して日本の伝統工芸について学んだ。短期留学生の参加者は8人で、留学生指導部門の出原節子が企画し、出原節子、加藤扶久美および副島健治が引率した。

4 おわりに

学術交流協定に基づく短期留学生に対する留学生センターの支援は、日本語教育とスタディ・トリップである。日本語教育については、日本語課外補講を受講する初級・中級レベルの学生および総合日本語コースを受講する上級レベルの学生に対して、今後も学部との連携をとりながら支援体制をさらに充実させていきたい。

また、スタディ・トリップについては、広く全学向け見学ツアーとして企画をして実施したが、大変好評であったので、今後も同様の企画を盛り込んで進めていきたい。